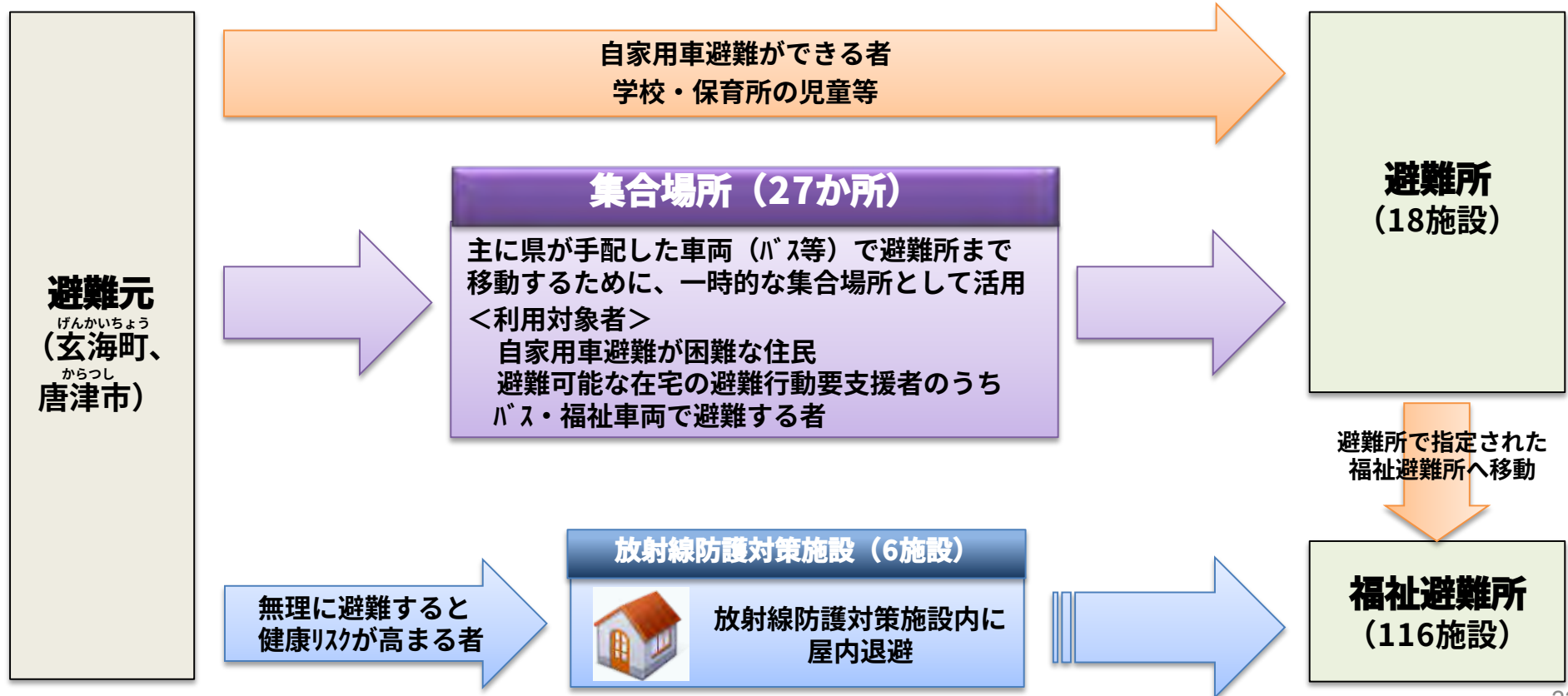


玄海町及び唐津市は、集合場所を拠点に、自主防災組織や消防団等と協力し、携帯端末や移動系防災行政無線等により、各市町と避難者の状況や避難誘導體制等、地区単位のコミュニティを活用した情報共有を実施。小中学校、保育所、医療機関、社会福祉施設、在宅の避難行動要支援者への情報伝達は各市町から実施。

警戒事態が発生した場合、^{げんかいちょう}玄海町及び^{からつし}唐津市は、住民への広報、佐賀県に対して避難用車両等の手配依頼、避難所及び福祉避難所の開設準備を行う。一方、施設敷地緊急事態要避難者は、避難準備等を行う。

施設敷地緊急事態になった場合、^{げんかいちょう}玄海町及び^{からつし}唐津市は、住民へ避難準備の周知を行う。一方、施設敷地緊急事態要避難者は、支援者が同行することで避難可能な者等はあらかじめ定められた避難所への避難を開始。福祉避難所へ移動が必要な者は、避難所で指定された近隣の福祉避難所へ移動。なお、無理に避難すると健康リスクが高まる者は、放射線防護対策施設にて屋内退避を実施。

全面緊急事態になった場合、^{げんかいちょう}玄海町及び^{からつし}唐津市は住民に避難を指示。自家用車で避難が可能な住民は避難所へ移動。自家用車による避難が困難な住民は、集合場所に集合し、避難所へ移動。その後、避難所から福祉避難所へ移動。

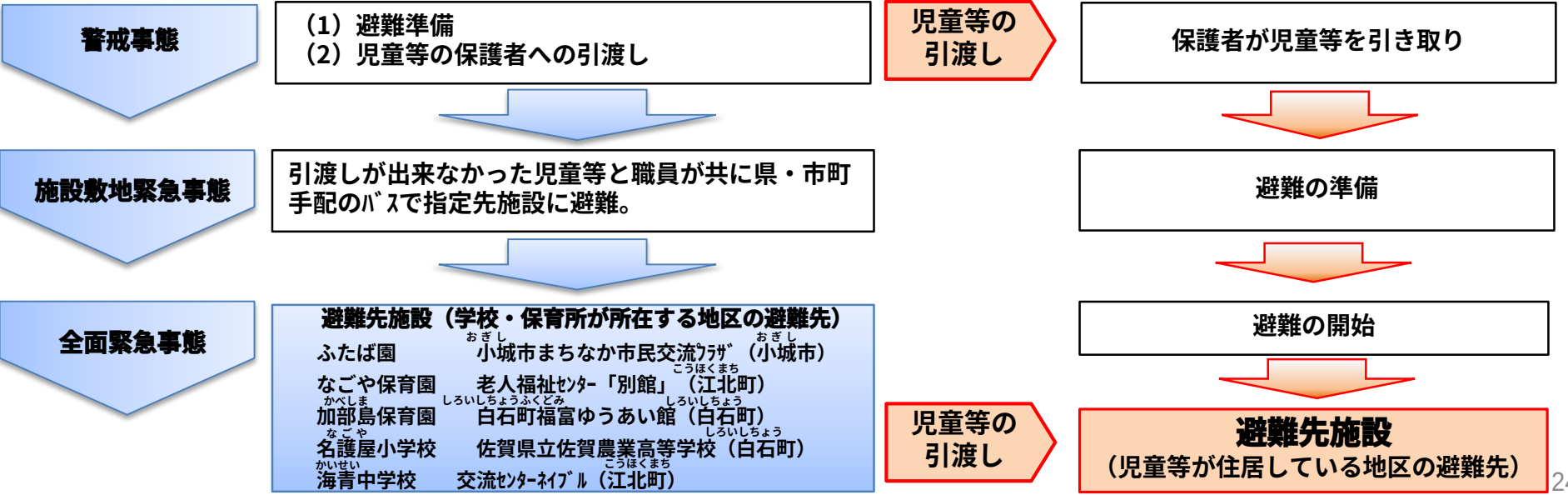


PAZ内の学校・保育所の児童等の避難

PAZ内の小中学校の児童等（2施設、約350人）及び保育所の幼児（3施設、約210人）は、警戒事態になった時点で授業・保育を中止し、保護者へ引き渡す。
保護者への引渡しができない児童等は、施設敷地緊急事態になった場合、教職員等とともに佐賀県又は関係市町が手配するバスで避難し、避難先において保護者に引き渡す。
全ての学校・保育所において個別避難計画を策定済み。

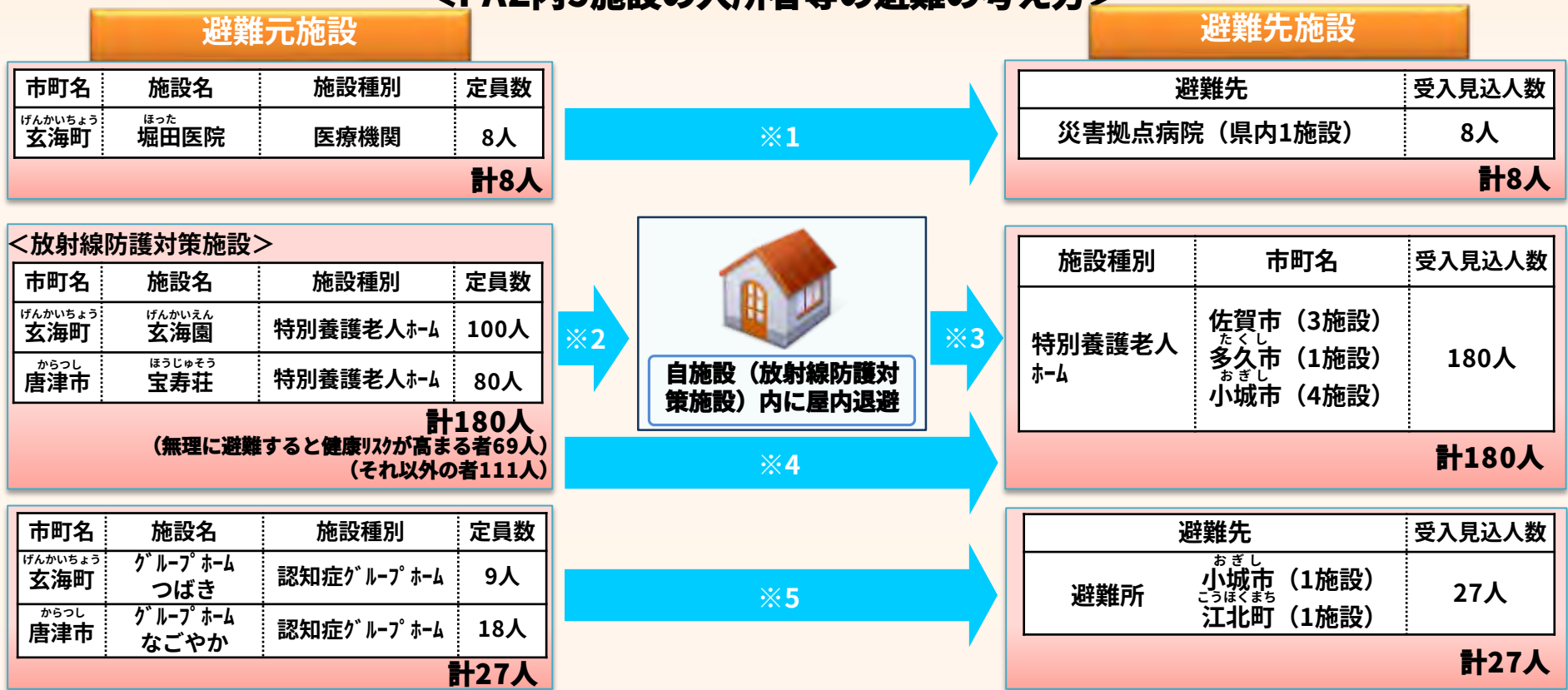
市町名	学校・保育所名称	人数		
		児童等	職員	合計
げんかいちょう 玄海町	ふたば園	122人	24人	146人
からつし 唐津市	なごや保育園	64人	20人	84人
	かべしま 加部島保育園	23人	7人	30人
	なごや 名護屋小学校	112人	12人	124人
	かいせい 海青中学校	235人	23人	258人
(5施設) 合計		556人	86人	642人

※児童等の人数については、平成28年4月1日現在。



PAZ内の医療機関 (1施設8人) 及び社会福祉施設 (4施設207人) の全てについて、避難計画を策定済み。医療機関については、入院患者の状況等をふまえ、佐賀県が避難先となる災害拠点病院を選定。
社会福祉施設については、30km圏外の佐賀市、^{たくし}多久市、^{おぎし}小城市、^{こうほくまち}江北町にある施設に避難先を確保。
無理に避難すると健康リスクが高まる者は、放射線防護対策を講じた屋内退避施設において、避難に必要な準備が整うまで屋内退避を実施。避難可能な入所者等は、あらかじめ定められた避難先施設へ避難を実施。
何らかの事情で、あらかじめ選定しておいた避難先施設が活用できない場合には、佐賀県が受入先を調整。

<PAZ内5施設の入所者等の避難の考え方>



※2

自施設（放射線防護対策施設）内に屋内退避

※3

施設種別	市町名	受入見込人数
特別養護老人ホーム	佐賀市（3施設） ^{たくし} 多久市（1施設） ^{おぎし} 小城市（4施設）	180人

計180人

※4

市町名	施設名	施設種別	定員数
げんかいちょう 玄海町	グループホーム つばき	認知症グループホーム	9人
からつし 唐津市	グループホーム なごやか	認知症グループホーム	18人

計27人

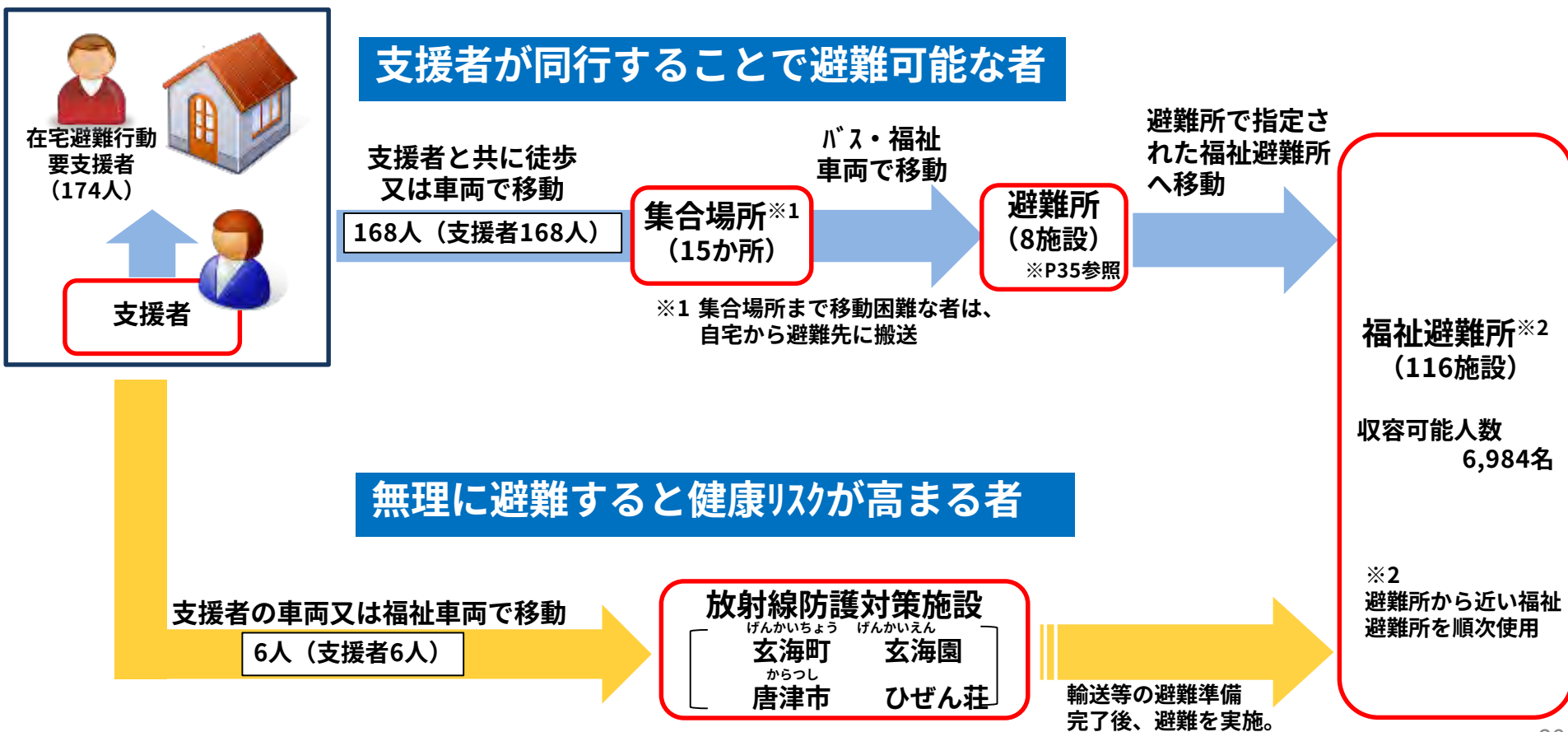
※5

避難先	受入見込人数
避難所 ^{おぎし} 小城市（1施設） ^{こうほくまち} 江北町（1施設）	27人

計27人

※1 佐賀県が避難先となる災害拠点病院を選定
※2 無理に避難すると健康リスクが高まる者は自施設内で屋内退避
※3 輸送等の避難準備完了後、あらかじめ定められた避難先施設へ避難
※4 避難可能な入所者等は、あらかじめ定められた避難先施設へ避難
※5 福祉避難所へ移動が必要な者は、避難所で指定された福祉避難所へ移動

玄海町では、在宅の避難行動要支援者^{げんかいちょう}174人全員に支援者がいることを確認。
支援者の同行により避難可能な者は、支援者と共に集合場所等から、佐賀県又は玄海町^{げんかいちょう}が確保するバスや福祉車両で避難所へ移動。その後、福祉避難所へ移動が必要な者は、避難所で指定された近隣の福祉避難所へ移動。
無理に避難するとかえって健康リスクが高まる者は、支援者の車両又は福祉車両で、近隣の放射線防護対策施設へ移動。

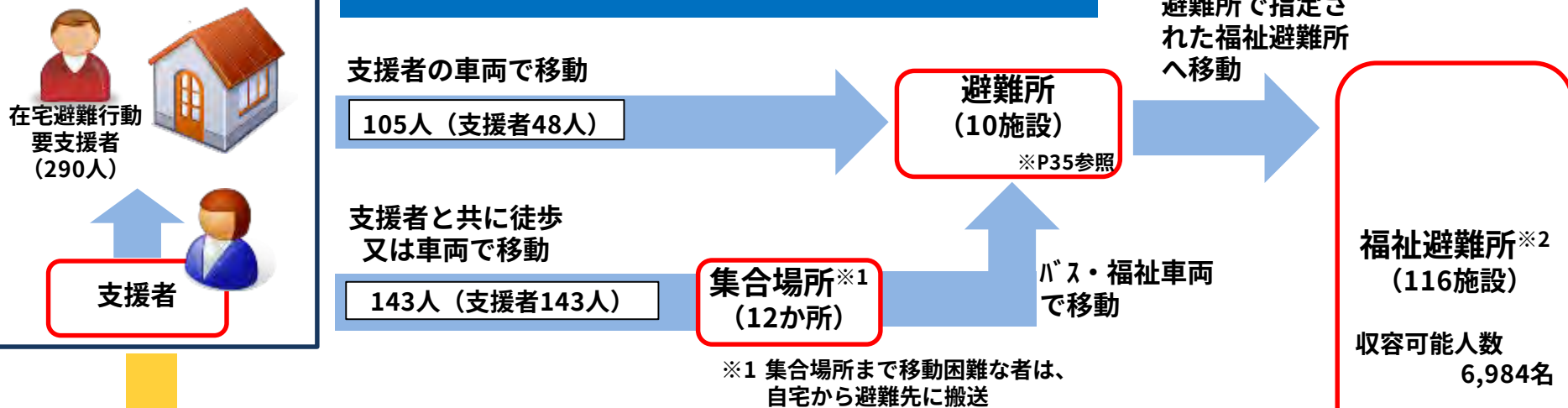


唐津市では、在宅の避難行動要支援者290人のうち233人は支援者がいることを確認。残る避難行動要支援者については、支援者の確保に向け調整。また、支援者を確保できない場合においても、行政職員、自治会、消防団員等の協力により避難できる体制を整備。

支援者の同行により避難可能な者は、支援者の車両や、佐賀県又は唐津市が確保するバスや福祉車両で避難所へ移動。その後、福祉避難所へ移動が必要な者は、避難所で指定された近隣の福祉避難所へ移動。

無理に避難するとかえって健康リスクが高まる者は、支援者の車両又は福祉車両で、近隣の放射線防護対策施設へ移動。

支援者が同行することで避難可能な者



無理に避難すると健康リスクが高まる者

支援者の車両又は福祉車両で移動

42人 (支援者42人)

放射線防護対策施設

唐津市 ちんぜい荘、ひぜん荘
旧加部島小学校※整備予定

輸送等の避難準備完了後、避難を実施。

※2 避難所から近い福祉避難所を順次使用

施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力は、想定対象人数約610人について、バス12台、福祉車両18台（ストレッチャー仕様6台、車椅子仕様12台）。

	想定対象 人数※1	必要車両台数			備考
		バス※2	福祉車両 （ストレッチャー仕様）	福祉車両 （車椅子仕様）	
保育所の幼児等の避難	146人 （児童等122人+職員24人） （1か所）	4台 （児童等122人+職員24人）	0台	0台	保護者への引き渡しによりその分必要車両台数は減少。 【資料P24参照】
医療機関及び社会福祉施設の入所者等の避難	109人 （入所者77人+職員32人） （3か所）	2台 （入所者67人+職員22人）	0台	3台 （入所者10人+職員10人）	【福祉車両（車椅子仕様）】 1台あたり4人の避難行動要支援者と4人の支援者の搬送を想定 【資料P25参照】
在宅の避難行動要支援者のうち、避難支援の申し出があった者及びその支援者を、避難先施設に輸送	336人 （要支援者168人+支援者 168人）	6台 （要支援者134人+支援者 134人）	0台	9台 （要支援者34人+支援者34人）	【福祉車両（車椅子仕様）】 1台あたり4人の避難行動要支援者と4人の支援者の搬送を想定 【資料P26参照】
在宅の避難行動要支援者のうち、避難支援の申し出があった者について、無理に避難すると健康リスクが高まる者及びその支援者を放射線防護対策施設に輸送※3	12人 （要支援者6人+支援者6人）	0台	6台 （要支援者6人+支援者6人）	0台	【福祉車両（ストレッチャー仕様）】 1台あたり1人の避難行動要支援者と1人の支援者の搬送を想定 【資料P26参照】
合 計	603人	12台	6台	12台	

※1 数字は現段階で地方公共団体が把握している暫定値

※2 バスは1台あたり46人の乗車を想定

※3 「無理に避難すると健康リスクが高まる者」は、輸送の準備が整うまで放射線防護対策施設に屋内退避

施設敷地緊急事態発生時には、保育所、医療機関、社会福祉施設、在宅の避難行動要支援者の避難のために、PAZ内市町のバス会社が保有する車両のほか、玄海町、社会福祉施設、九州電力等が配備する車両により、必要車両台数を確保。

バス会社の運転手は交代制勤務のため、緊急時の動員方法等について調整中。

		確保車両台数			備考
		バス※1	福祉車両 (ストレッチャー仕様)	福祉車両 (車椅子仕様)	
(A) 最大必要車両台数		12台 503人分 (対象者323人 + 支援者等180人)	6台 12人分 (対象者6人 + 支援者等6人)	12台 88人分 (対象者44人 + 支援者等44人)	【資料P28参照】
(B) 車両確保台数		計12台以上	計6台以上	計12台以上	
確保先	げんかいちょう 玄海町、社会福祉施設等 が保有する車両	-	1台×3往復※2 6人分 (対象者3人 + 支援者等3人)	9台 28人分 (対象者14人 + 支援者等14人)	【福祉車両 (ストレッチャー)】 1台あたり1人の避難行動要支援者の搬送を想定 【福祉車両 (車椅子仕様)】 1台あたり1人の避難行動要支援者の搬送を想定した車両が4台、2人の避難行動要支援者の搬送を想定した車両が5台
	PAZ内市町のバス会社が 保有する車両	12台以上 503人分 (対象者323人 + 支援者等180人)	-	-	PAZ内市町のバス会社が保有する車両総 数156台
	九州電力が配備する車両	-	1台以上×3往復※2 6人分 (対象者3人 + 支援者等3人)	8台以上 60人分 (対象者30人 + 支援者等30人)	九州電力が近隣事業所等に車両を配備 【福祉車両 (ストレッチャー)】 1台あたり1人の避難行動要支援者の搬送を 想定 【福祉車両 (車椅子仕様)】 1台あたり4人の避難行動要支援者の搬送を 想定

※1 バスは1台あたり46人の乗車を想定

※2 福祉車両 (ストレッチャー仕様) 計2台は、屋内退避施設までピストン輸送 (3往復) での搬送を想定

※3 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、実動組織 (警察、消防、海保庁、自衛隊) に支援を要請

施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力は、想定対象人数約990人について、バス20台、福祉車両19台（車椅子仕様19台）。

	想定対象 人数※1	必要車両台数			備考
		バス※2	福祉車両 (ストレッチャー仕様)	福祉車両 (車椅子仕様)	
学校・保育所の児童等の避難	496人 (児童等434人+ 職員62人) (4か所)	11台 (児童等434人 +職員62人)	0台	0台	保護者への引き渡しによりその分 必要車両台数は減少。 【資料P24参照】
社会福祉施設の入所者等の避難	126人 (入所者69人+ 職員57人) (2か所)	3台 (入所者69人 +職員57人)	0台	0台	【資料P25参照】
在宅の避難行動要支援者のうち、 避難支援の申し出があった者及び その支援者を、避難先施設に輸送	286人 (要支援者143人+ 支援者143人)	6台 (要支援者118人 +支援者118人)	0台	7台 (要支援者25人 +支援者25人)	【福祉車両（車椅子仕様）】 1台あたり4人の避難行動要支援者 と4人の支援者の搬送を想定 【資料P27参照】
在宅の避難行動要支援者のうち、 避難支援の申し出があった者につ いて、無理に避難すると健康リス クが高まる者及びその支援者を放射 線防護対策施設に輸送※3	84人 (要支援者42人+ 支援者42人)	0台	0台	12台 (要支援者42人 +支援者42人)	【福祉車両（車椅子仕様）】 1台あたり4人の避難行動要支援者 と4人の支援者の搬送を想定 【資料P27参照】
合 計	992人	20台	0台	19台	

※1 数字は現段階で地方公共団体が把握している暫定値

※2 バスは1台あたり46人の乗車を想定

※3 「無理に避難すると健康リスクが高まる者」は、輸送の準備が整うまで放射線防護対策施設に屋内退避

施設敷地緊急事態発生時には、学校・保育所、社会福祉施設、在宅の避難行動要支援者の避難のために、PAZ内市町のバス会社が保有する車両のほか、唐津市、社会福祉施設、九州電力等が配備する車両により、必要車両台数を確保。
バス会社の運転手は交代制勤務のため、緊急時の動員方法等について調整中。

		確保車両台数			備考
		バス※1	福祉車両 (ストレッチャー仕様)	福祉車両 (車椅子仕様)	
(A) 最大必要車両台数		20台 858人分(対象者621人 +支援者等237人)	-	19台 134人分(対象者67人 +支援者等67人)	【資料P30参照】
(B) 車両確保台数		計20台以上	-	計19台以上	
確保先	唐津市、社会福祉施設等が保有する車両	-	-	16台 38人分(対象者19人 +支援者等19人)	【福祉車両(車椅子仕様)】 1台あたり1人の避難行動要支援者の搬送を想定した車両が13台、2人の避難行動要支援者の搬送を想定した車両が3台
	PAZ内市町のバス会社が保有する車両	20台以上 858人分(対象者621人 +支援者等237人)	-	-	PAZ内市町のバス会社が保有する車両総数 156台
	九州電力が配備する車両	-	-	2台以上 12人分(対象者6人 +支援者等6人) 4台以上×3往復※2 84人分(対象者42人 +支援者等42人)	九州電力が近隣事業所等に車両を配備 【福祉車両(車椅子仕様)】 1台あたり4人の避難行動要支援者の搬送を想定

※1 バスは1台あたり46人の乗車を想定

※2 福祉車両(車椅子仕様)4台は、屋内退避施設までピストン輸送(3往復)での搬送を想定

※3 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、実動組織(警察、消防、海保庁、自衛隊)に支援を要請

避難を行うことにより健康リスクが高まる避難行動要支援者等に係る対応

予防的な避難を行うことによって、かえって健康リスクが高まるような重篤者等については、無理な避難は行わず、放射線防護機能を付加した近傍の放射線防護対策施設（6施設（整備予定を含む。））に収容。

これら6施設では、施設入所者とPAZ内の在宅の避難行動要支援者を約1,300人を収容可能。
放射線防護対策施設では、約1,300人がおよそ3日を目安に生活できる食料及び生活物資等を確保するため、必要な備蓄と供給体制を整備。

放射線防護対策施設（6施設）

(C)2016ZENRINZ05E-第175号)



げんかいえん
玄海園
(収容可能者数 162人)

げんかいちょうほかわづ ちかがわち しもみや なかどおり かりたち
玄海町外津、値賀川内、下宮、中通、仮立、
ふおんじ ひらお はまのうら
普恩寺、平尾、浜野浦、シーラインタウン地区の
在宅の避難行動要支援者の受入及び
自施設内の入居者の屋内退避を想定



ひぜんじょう※整備中
(収容可能者数 176人)

からつし ひぜんちょう げんかいちょう こがくら さかえ
唐津市肥前町、玄海町小加倉、栄
花の木、大園、石田、仮屋地区の
在宅の避難行動要支援者の受入及び
自施設内の入居者の屋内退避を想定

PAZ



かべしま
旧加部島小学校※整備予定
(収容可能者数 約600人)

からつし よぶこちょう かべしま
唐津市呼子町加部島における
在宅の避難行動要支援者の
受入を想定



ほうしゅうじょう
宝寿荘
(収容可能者数 70人)



うしおじょう※整備中
潮荘
(収容可能者数 50人)

ほうしゅうじょう うしおじょう
宝寿荘、潮荘は自施設内の
入居者の屋内退避のみを想定



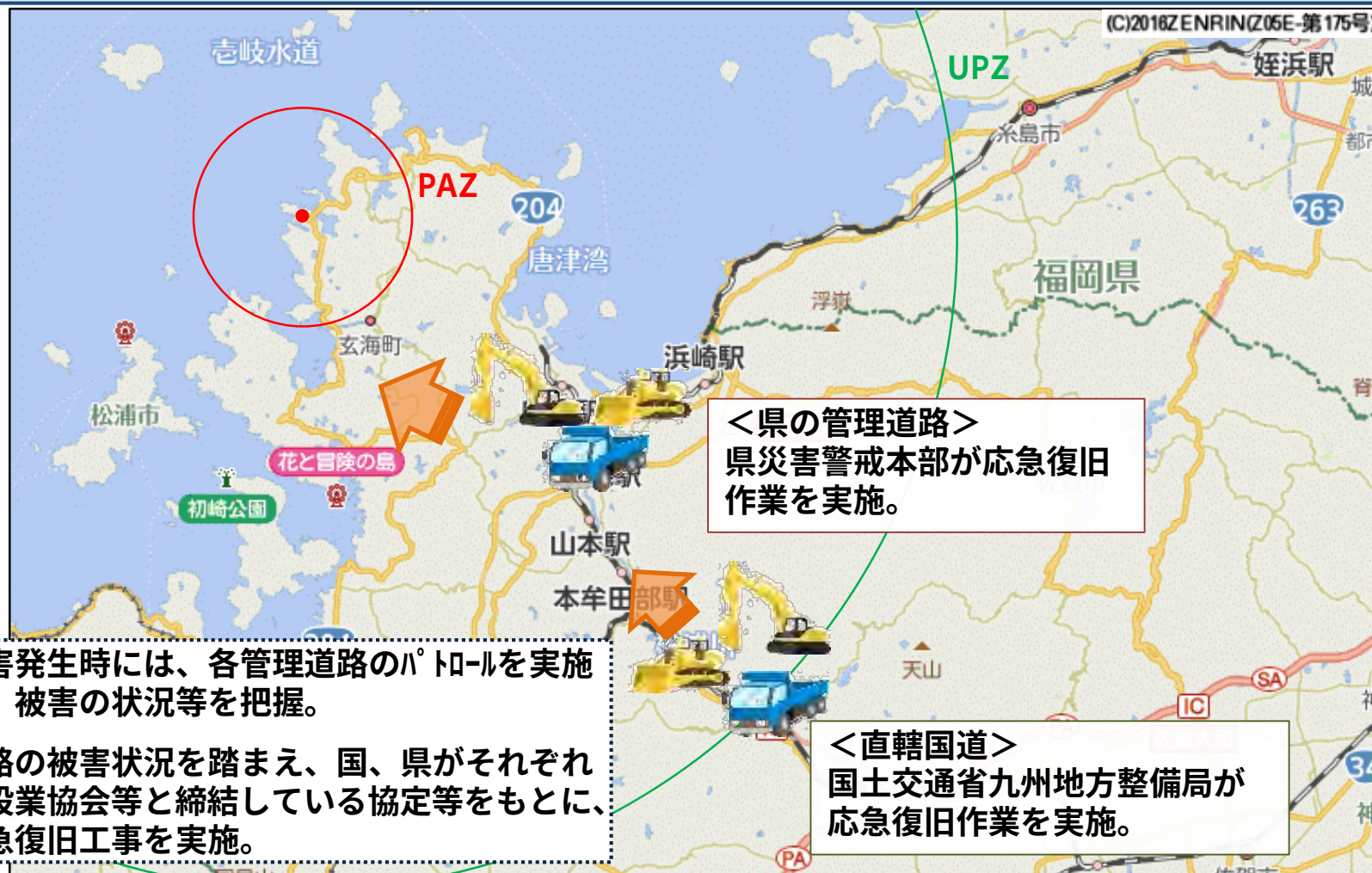
ちんぜいじょう
ちんぜい荘
(収容可能者数 239人)

からつしちんぜいちょう よぶこちょうとのうらにし
唐津市鎮西町、呼子町殿ノ浦西
における在宅の避難行動要支援
者の受入及び自施設内の入居者
の屋内退避を想定

自然災害等により道路等が通行不能になった場合の復旧策

避難開始前の段階において、避難計画で避難経路として定められている道路等が自然災害等により使用出来ない場合は、佐賀県、玄海町^{げんかいちょう}及び唐津市^{からつし}は、代替経路を設定するとともに、道路等の管理者は復旧作業を実施。

直轄国道については、国土交通省九州地方整備局が早急に被害状況を把握し、迅速かつ的確な道路啓開、仮設等の応急復旧を行い、早期の道路交通の確保等に努める。



5. PAZ内の全面緊急事態 における対応

＜対応のポイント＞

1. 自家用車による避難ができない住民の移動手段（バス等）を確保し、避難を開始すること。
2. 避難先施設の受入れ体制を整えること。
3. 安定剤素剤を持っていない者（紛失等）に、緊急配布すること。